

Freude

vol. 14-17 2021.3.24.wed

今日はハイドンネタです

大阪フロイデ合唱団 Tel 06-6358-2626
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-18-4B
ホームページ <http://www.osakafreude.com>
メールアドレス info@osakafreude.com

テレジアって誰！

まず思い浮かべるのは、歴史上の有名な女帝マリア・テレジア（1717～1780）ですが、テレジア・ミサが作曲されたのは1799年。この人ではないですよええ。

で、長らく考えられていたのは、オーストリア皇帝フランツ2世の二度目の皇后マリア・テレジア（1772～1807）のために作曲された、という説。

しかしテレジア・ミサは、ネルソン・ミサと同様、ハイドンの後期六大ミサの4曲目であり、実際にはこの時期のほかのミサ曲と同様、エステルハーゼ侯爵ニコラウス2世夫人マリア・ヘルメンギルデのために作曲され、1799年9月8日の夫人の聖名祝日で初演されたということです。では、なぜ「テレジア・ミサ」の愛称がついたのか、...

ハイドンの専門家として名高い音楽学者ランドンによれば、同じころハイドンはマリア・テレジアのために「テ・デウム」を作曲しており、そこから混同がおきたのかもしれない、とのこと。

或いは、初演された後、フランツ2世王妃マリア・テレジアに献呈され、宮廷の礼拝堂でも演奏されたことにより「テレジア・ミサ」の愛称が付いた説。ところが、ほかに、彼女は献呈を受けたのではなく、溺愛するハイドンのミサ曲を自ら蒐集し、コレクションの中に加えていた、という説。

う～ん、謎ですね～。

知らんけど～



3/31(水)

18:30～

小田北

(JR尾崎)

合声

4/7(水)

18:30～

天王寺@尾

合声

4/11(日)

13:15～

小田北

合声

4/14(水)

18:30～

天王寺@尾

合声

ハイドンのこと改めて知っとこ(^^; (ネットつぎはぎ・違ってたらゴメン)

F.J.ハイドンは、1732年オーストリアのローラウに車大工の息子として生まれる。

8歳の時にウィーンのシュテファン聖堂付聖楽隊に入り活躍。15歳頃変声期を迎えたハイドンは、17歳の時、ある事件をきっかけに聖楽隊を脱退の身に着のまま追いつけず、その事件とは・・・合唱団で前の席にいた少年の髪の毛が気になったハイドンは鋏でそのおさげをちょん切ってしまった\(\◎◎)/！ちょっとしたいたずらのつもり？ほかにも多くいたずらの話がよく知られ、このいたずら心は交響曲第45番「告別」（楽団員の休暇を求めて、演奏しながら楽団員がだんだん立ち去っていく演出）や、交響曲第94番「驚愕」（曲の途中で突然でっかい音で、寝てる貴族を起こす）等の作品でも発揮されている。

その後はしばらく貴族の間を転々と仕える生活。ウィーンの街角でセレナーデの流しをしていたこともあったなど、苦勞の連続の20代。29歳でエステルハーゼ侯爵家に迎えられる、34歳で楽長になり、58歳までエステルハーゼ家に仕える。

30年に及ぶエステルハーゼ家での生活の間に数々の交響曲、協奏曲、弦楽四重奏曲、ピアノ・トリオやピアノ・ソナタからオペラやカンタータまで、数多くの作品を作曲。

楽長としてのハイドンは、作曲だけでなく楽団の人事から楽譜の管理まで、すべてを取り仕切った。人格は円満で、楽団員の信望も厚かった。

ちなみにハイドンの妻は、音楽史上名高い悪妻と言われ、家計のやりくりにもハイドンの音楽的才能にも全く無関心。ハイドンの生涯の悩みの種だったそう。モーツァルト夫人、チャイコフスキー夫人と並んで「音楽家の三大悪妻」と呼ばれてるんだって。ホントかどうか定かでないが、一説にはハイドンが書いた楽譜を破いて、野菜を包んだり、ケーキの台紙にしたり、料理の包み紙に使ったりしていたらしい。

1790年にエステルハーゼ家を辞してから、ハイドンは興行師ザロモンの招きで2回ロンドンに旅行し、その間にザロモン交響曲として知られる12の交響曲を作曲。このイギリス滞在時に聴いたヘンデルの作品に、ハイドンは大変感銘を受け、ウィーンに戻った後、オラトリオ「天地創造」「四季」を書き上げた。

1795年、2回のロンドン旅行からウィーンに帰ったハイドンは、旅行中に新しく位についたエステルハーゼ侯爵ニコラウス2世の要請によって、エステルハーゼ家の楽長に再び就任した。楽長としての主要な仕事のひとつに、毎年ミサ曲を作曲して、侯爵夫人マリア・ヘルメンギルデの聖名祝日である9月8日にアイゼンシュタットのベルク教会で演奏することがあった。ハイドンは1796年から1802年にかけてほぼ毎年この義務を果たした（1800年を除く）。ハイドンの後期六大ミサ曲「ハインリッヒ・ミサ」「戦時のミサ」「ネルソン・ミサ」「テレジア・ミサ」「天地創造ミサ」「ハルモニー・ミサ」はこのようにして作曲されたものである。

晩年のハイドンはウィーン郊外で余生を過ごし、ナポレオンのウィーン侵攻のさなかの1809年没。ハイドンの最後の言葉は、近くに大砲が命中し怯える家人達を気遣うものだったとか。